関西学院大学 総合支援センター キャンパス自立支援室

日本初！3 人体制によるノートテイク！！

【特徴】

① パソコンテイカーは交代制なので，長時間打ち続けることがなく、負担軽減が可能。また短時間に集中してタイピングできるので安定した情報保障ができる。

② 多くの情報を保障できるパソコンテイクと、パソコンではできない図の表現、情報の概略化や利用者のサポートを行う手書きテイクが組み合わさることで、質の高い聴覚障害支援が可能に！

【役割】

●パソコンテイカー（2人）

～授業の音声情報をタイピングして文字化する～

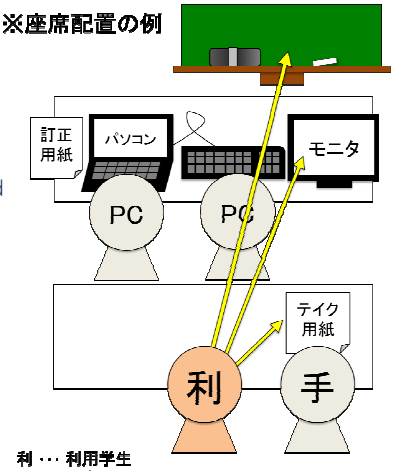
①10～15分おきに交代してWord等のテキストエディタにタイピング。

②待機中のテイカーは入力中のテイカーの補助を行う。

⇒打ち間違いを訂正用紙に記入する。

⇒打ち逃した単語を口頭で入力中のテイカーに伝える。など

※座席配置の例



利・・・利用学生
手・・・手書きテイカー
PC・・・PCテイカー

●手書きテイカー（1人）

～パソコンではできない情報保障や利用者のサポート～

①図や表，要点などのパソコンでは表現できないことを、手書きでまとめる。

②レジュメや手書きでまとめたノートに先生のコメントを書き加える。

③レジュメなどの今読み上げられている箇所を指し示す。

④挙手する場面を知らせる。⑤利用学生の質問に応じる。

学生に合わせたサポート

〇視覚障害サポート

教材の点訳・拡大・テキスト校正／対面朗読／

支援器具の利用（拡大読書機、音声読み上げソフト＋パソコン等の利用）

〇肢体障害サポート

授業教室に関する調整／学内の生活介助／ノート製作者の派遣

〇発達障害サポート

個別のニーズに合わせた対応

（スケジュール立案、実験サポート等）

〇聴覚障害サポート

ノートテイカーの派遣／映像教材の文字起こし・字幕付け／

手話通訳者の派遣／支援器具の利用

問い合わせ先

関西学院大学 学生活動支援機構 総合支援センター

キャンパス自立支援室

（西宮上ケ原キャンパス）
兵庫県西宮市上ケ原一番町 1-155
0798-51-7034
jiritsu-nuc@kwansei.ac.jp

（神戸三田キャンパス）
兵庫県三田市学園 2-1
079-565-7903
jiritsu-ksc@kwansei.ac.jp

私たちがつくるサポート

〇講習会の学生講師

新規テイカー向け（年2回）

既存テイカー向け（年2回）

〇応募啓発活動

ポスターの展示

DVDの作成

リサーチフェアへの参加

〇課題解決・交流のために

顔合わせ会（年2回）

定期的なミーティング（年4回）

マニュアル作成

その他随時ミーティング開催

＊リサーチフェアとは・・・主に総合政策学部の学生が日ごろの研究成果を発表する場です。そこに参加し、ポスター発表やテイク体験を通して、ノートテイカーの活動などを一般の学生に広めています。

～こんなこともしています～

ノートテイクに携わっていた学生と支援室が一体となって、画面統合ソリューションや代理を募集するシステムの研究を行いました。

ノートテイク活動を通して深まる絆

関西学院大学の支援制度は、学生、教員、コーディネーターなどたくさんの人々によって成り立ち、それぞれの視点から制度向上を目指します。新人のための養成講座、スキルアップ講座など、活動の多くは学生主体となって計画、進行します。昼休みには手話講座を開講。人と人との結びつきも強くなり、OBOG含めた交流が定期的に催されます。現役学生にとってOBOGの方々は頼りになる先輩であり、超えるべき目標でもあります。

＜支援制度にかかわる人の声＞

●視覚障害の方にも分かるようPowerPointのデザインを工夫したり、聴覚障害の方にも分かりやすいよう資料を用意するなど、少しの工夫で皆に分かりやすくなることを知りました。「支援とは？」「障害とは？」というテーマで、様々な学部の視点から意見を言いあうなど、学生主体で積極的に活動を行った経験は、一生大切にしたいと思います。（S.Aさん）

●学部を超えた人たちや卒業生との交流が頻繁に行われるのはノートテイカー以外の活動ではなかなかないことです。すごく貴重な場です！（U.Yさん）

●学生、教職員が力を合わせ、障がいのある学生の修学支援を実現している。自分が知恵を絞れば、PR動画製作等、自分の技術を活かす場がある。まさに、大学にできた学びの実践の場だと思います。（S.S.さん）

●利用学生、支援学生、支援室や教員の方々、立場が違うことで遠慮や行き違い等もあると思いますが、よりよいノートテイクの為に色々な方の協力が必要です。お互いの意見を尊重しつつ、言いたいことを言い合える。そんな環境つくりを大切にしていきたいと思います（M.U. さん）

●ノートテイクをより良くするため、各自が自発的に考え行動できる数少ない団体であり、そこに居心地の良さを感じています。（12年卒M.Hさん）

●支援学生も利用学生もいつも「どうしたら活動がより良いものになるのか?」を考えています。（15 年卒 T.N さん）

●自分の実力が直接的に偽りなく現れる戦場において何度も挫けそうになるが、第一線で戦う利用学生や共に支援する戦友と共に協力し合いながら活動を行っています。（15年卒Tさん）